

速さ単元の導入について

新篠津高等養護学校

坂井健太郎

1. はじめに

- ・実践の目的：「速さ」の学習に興味関心を持ち、自ら進んで問題に取り組むこと
- ・実践の背景：事前の速さの学習アンケートにて「速さは苦手」「時間、距離、速さの計算が難しい」といった記入があり、授業方法を模索。単元の1時間目の進め方を検討した。

2. 実践方法

- ・使用した教材：タブレット端末(Keynote アプリ、Kahoot! アプリを使用)、教科書(「くらしに役立つ数学」/明官 茂 監修/東洋館出版社)
 - ・実践手順
- A こちらで事前に作成した Keynote アプリのスライド、Kahoot!アプリの問題を例示し、教科書やインターネット等の使えるものは何でも使って良いことを確認し、自分で Keynote アプリのスライド、Kahoot!アプリの問題を作成するように伝えた。
- B 大型モニターでそれぞれが作成したスライドや問題を発表、共有する時間を設定した。

3. 結果

- ・生徒の反応：生徒から様々な作成した問題が出てきた。例えば、「時間を求めるときは、距離÷速さである。(○か×か)」、「Cさんの家から隣町まで70 kmあります。自転車(20 km/h)と車(50 km/h)では、それぞれどのくらい時間がかかりますか」、「180 kmの道のりを4時間で進む自動車の速さは、時速45 km。○か×か」、「バスが2時間で150 km進みました。バスの時速は80 km。○か×か。」といった問題が出てきた。問題作成後、生徒は嬉しそうにしていた。

4. 考察

- ・今後の課題：個人の活動で終始し、集団での学びを深めるところまで進めることができなかった。単元の2時間目以降は、教科書の計算問題に取り組み、「速さ」の理解を深めていく予定である。

5. まとめ

- ・実践を通して得られた知見：生徒一人ひとりが意欲的に教科書やインターネットを調べたり、仲間と意見交換をしたりしながら、スライドや問題の作成を進めることができ、生徒の試行錯誤しながら課題に取り組む姿が見られた。

・今後の展望：生徒が作成したスライドや問題をもとにした授業展開についても今後、検討を進め、実践していきたいと考える。